

○25番（仙波憲一）（登壇） おはようございます。

自民クラブの仙波憲一です。

質問も最終日ともなると、重複する部分もあると思いますが、違った視点ですので、ぜひよろしくお願いをいたします。

現代の地域社会において、全国的な人口減少と少子高齢化が進展し、地方都市における人材や担い手不足が深刻な課題となっております。地域経済の縮小、都市機能の低下に加え、住民の地域離れが進むことで、地域社会の結びつきや持続可能性が揺らいでいる状況にあります。

こうした中で、私たちが真に目指すべきは、単なる現状維持ではなく、持続可能で魅力あるまちづくりをいかに実現するかであります。その鍵を握るのは、行政の施策だけにとどまらず、市民自らが地域に誇りを持ち、能動的に関わり、共に町を育てていく力であると考えます。

この主体的、自立的な市民意識は、近年、シビックプライドとして全国的にも政策的にも注目されております。シビックプライドの醸成は、市民一人一人が自分の町を誇りに思い、その価値を発信できるようになることで、地域活動の活性化、観光や産業の発展、さらには定住促進につながる重要な要素であります。

まず、本市においてシビックプライドをどのように捉え、今後のまちづくりや文化政策の中でどのように具体的に位置づけされていかれるのか、市長の御所見をお伺いしたいと思います。

次に、文化資源を活用した誇りの醸成についてであります。

新居浜市には、勇壮華麗な太鼓台文化、日本の近代化を支えた別子銅山の歴史、そして、地域の強みであるものづくり産業といった、他地域に誇り得る文化資源が豊富に存在しております。これらは、単なる歴史的遺産にとどまらず、本市のアイデンティティーそのものであり、市民の誇りを形成する核であります。こうした文化的レガシーを観光や教育、産業振興と有機的に結びつけ、市民がこの町に住んでよかったと実感できる誇りを醸成するために、どのような施策を展開していかれるのかお伺いします。

続いて、教育、次世代への継承についてであります。

地域の文化を未来へとつなげることは、シビックプライド醸成の根幹であります。先般、新居浜工業高等専門学校が生徒がどこどこマップというアプリを開発し、太鼓台の位置情報を共有することで、祭りの利便性と安全性を高める取組が始まりました。若者たちの創意と技術を地域文化につなげた極めて意義深い事例であり、デジタル技術の力で伝統が進化していく好例であります。こうした実践を広げ、郷土学習や探求学習において太鼓台や鉾山、産業文化を体系的に学び、実地体験と結びつけられる教育プログラムをどのように整備、推進していくのか、本市の考えをお聞かせください。

さらに、2025年大阪・関西万博を契機としたレガシー戦略についてお伺いします。

本市は、太鼓台3台を搬送し、世界に向けて新居浜の力、技術、美を発信いたしました。歴史的経験を一過性のイベントに終わらせることなく、文化政策、観光戦略、産業振興、国際交流へと波及させることが

求められます。万博を通じて得られた知見や国際ネットワークを今後の地域戦略へどう組み込み、持続的な成果へつなげていくのか、市としての方針をお伺いします。

ここで、観光振興の視点を申し上げます。

太鼓祭りをはじめとする伝統文化や産業遺産を、観光客にとって体験型、参加型の魅力に高めることで、リピーターの創出やインバウンド需要の拡大が期待されます。また、デジタル技術を駆使して、オンライン配信や多言語対応の観光情報を整備することにより、国内外への発信力を強化できると考えます。

さらに、国際交流の視点も重要です。万博を通じて培われた世界とのつながりを、教育、文化交流、産業連携へと発展させることにより、本市の存在感を高めることが可能です。海外の学生や研究者との交流プログラムや国際的文化イベントの開催などを通じて、地域の魅力を世界に広げ、同時に外からの刺激を受け入れる仕組みづくりを進めていただきたいと考えます。

そして、地域経済への波及効果についてであります。

文化や観光は、単に精神的な誇りを醸成するだけでなく、地域経済を支える大きな力となり得ます。太鼓祭りや別子銅山遺産を中心とした観光振興は、飲食、宿泊、交通など、関連産業に新たな需要を生み出し、地域経済の活性化につながります。また、デジタルや観光分野における新規ビジネスの創出は、若者の雇用機会を拡大し、地元定着の促進にも寄与することが期待されます。さらに、地域ブランドを磨き上げることによって、企業誘致や商品開発の展開も加速し、産業の裾野を広げる効果も見込まれます。

最後に、市民参画と行政の役割についてです。

シビックプライドは、行政が一方的に与えるものではなく、市民が主体的に築き上げるものです。そのために、行政には市民が地域活動に関わりやすく、挑戦を後押しできる環境を整備する責務があります。SNSや観光ガイドを活用したシティプロモーション講座、地域の魅力を自ら発信するローカルアンバサダーの育成などはその好例であります。

太鼓台をはじめとする新居浜の文化遺産は、市民の誇りであると同時に、未来を切り開く文化的資産であります。2025年万博での経験を市民の自信と誇りへ昇華させ、教育、観光、産業、国際交流の各分野に広げ、さらには、地域経済の活性化へと波及させることこそ、持続可能な地域社会を築く基盤であると考えます。市民と行政が一体になり、文化、観光、デジタル、国際交流、経済振興を有機的に結びつけながら、シビックプライドを育むことで、新居浜の未来はさらに大きな輝きを放つものと確信します。

以上を踏まえて、市長の前向きで力強い御答弁をお願いします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） おはようございます。

仙波議員さんの御質問にお答えいたします。

市のレガシーとシビックプライドについてでございます。

まず、シビックプライドの位置づけについてお答えいたします。

シビックプライドにつきまして

は、定住・Ｕターン人口の増加や市民による情報発信の増加といった効果が期待でき、本市の持続的な発展にとりまして、極めて重要な要素になるものと考えております。このため、本市ではシティブランド戦略において、まちの魅力を人から人へをテーマに、市への誇りと愛着の醸成、まちづくりへの参加意欲・推奨意欲の醸成を基本目標に掲げ、シビックプライドの醸成に取り組んでおります。

次に、文化資源を活用した誇りの醸成についてでございます。

本市には、太鼓台文化や別子銅山の歴史、ものづくり産業といった、全国に誇る数多くのすばらしい文化資源があり、太鼓祭りを活用した観光の推進や企画展等による別子銅山の歴史の伝承や情報発信、ものづくりブランドの創出・支援などの施策に取り組むとともに、市民の皆さんと文化資源の磨き上げを行い、新しい価値を生み出していくことで、市民がこの町に住んでよかったと思える誇りの醸成につなげてまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 長井教育長。

○教育長（長井俊朗）（登壇） 教育、次世代への継承についてお答えいたします。

本市では、小中学校９年間を通して、郷土の文化と産業を系統的に学び、実地体験する機会を提供しております。具体的には、小学校４年生では、住友金属鉱山株式会社によるＳＤＧｓ出前授業に参加し、主要産業の歴史や役割を学ぶほか、６年生では塩の学習館において塩づくりの現地体験学習を行っております。また、中学校では、新居浜南高校ユネスコ部の協力を得て制作された別子銅山ガイドブックを活用し、産業遺産への探求学習を深めるほか、産業振興課が企画するものづくり体験講座への参加や小中学生ふるさと学習展示会など、学習成果を発表する機会を設けております。

太鼓台につきましては、こども夢未来基金を活用して作成したふるさと学習資料「めざせ！！新居浜ものしり博士」を使って、太鼓台の歴史や知識を学ぶほか、各小中学校では、お祭り集会を通じて地域文化に触れる機会を提供しております。

地域の歴史や文化、産業に触れ、学ぶことで、児童生徒が主体的に課題解決する力を育成しております。地域社会との関わりを深めることが、新居浜の未来を担う子供たちのキャリア教育にもつながります。

郷土学習や探求学習をさらに発展させ、子供たちの将来の進路選択や社会参画意識の醸成の基盤となるよう取り組んでまいります。

○議長（田窪秀道） 加地企画部長。

○企画部長（加地和弘）（登壇）

シビックプライドを築いていく上での、行政が果たすべき役割についてお答えいたします。

主体的で自立的な市民意識を醸成するには、地域資源のプロモーションで参加したくなる理由を育み、市民が地域課題の解決や価値創造に主体的に参加できる共感と参画の場を築くことが行政の役割であると考えております。

次に、市民参画の機会の拡充についてでございます。

本市では、市民参画の機会、場の提供を目的とした市民の提案を市の政策に反映させる新居浜みらい会議や市民が市の魅力や地域資源を積極

的に発信するHello! NEW新居浜アンバサダーといった取組を行っております。今後におきましても、市民の意見を政策に反映させる事業の実施や、SNSなどを通し市民が市の魅力を発信する機会を設けるなど、様々な形で市民の皆様に参画いただける場を創出してまいります。

○議長（田窪秀道） 藤田経済部長。

○経済部長（藤田清純）（登壇）

大阪・関西万博を契機としたレガシー戦略についてお答えいたします。

5月21日に実施いたしました太鼓台派遣事業では、本市の魅力を世界へ発信することができたものと考えております。今回の太鼓台の万博派遣をレガシーとしてどう位置づけ、今後の施策に生かしていくのかにつきましては、新居浜太鼓祭りがこれまで以上に市民や観光客の皆様にあいされ、大きく発展していくための契機と捉えており、今後、本市の観光振興への活用はもとより、多方面の事業への波及効果が期待できるものと考えておりますことから、各種事業への効果的な展開を考えてまいります。

○議長（田窪秀道） 仙波憲一議員。

○25番（仙波憲一）（登壇） 特に今回の大阪・関西万博を契機に、もう一度、新居浜市のレガシーであったりシビックプライドについて、考えていただきたいという思いがありました。

その中で、特に価値を市に根づかせて市民の誇りを醸成するという意味で、もう少し具体的に市のほうでは施策はないのですかというのがありまして、例えば、先ほど私が紹介した高専の生徒さんが太鼓台の位置情報を見えるようにするとか、そういうことに対する市の協力体制とか募集とか、そういうのはないのでしょうか。

確かに、ホームページで情報を出したりポスターを配布したりということはあるんですが、それ以外にそういう市民への働きかけというのはないのかなというふうに思いますので、もしその点があれば、もう一度お答えをいただきたいと思います。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田経済部長。

○経済部長（藤田清純）（登壇）

仙波議員さんの御質問にお答えいたします。

もう少し具体的な取組がないかという御質問だったと思います。

新居浜高専さんのほうで現在、どこどこマップというアプリを使って太鼓台に携帯の発信機みたいなものをつけると、その太鼓台が今現在どこにいるのか確認できるような仕組みを今試行で作っていただいております。

今回のお祭りにつきましては、さきの太鼓台の関係者が集まる場において、それを取り付けていただける太鼓台というのを募集をかけて、幾つかからはそれに取り組むというような返事をいただいております。9月末までを締切りにしておりますので、それを見ていただくと、観光客とかが太鼓台が今どこにいるのか、そういったことも分かるような仕組みが今回できるようになっています。そういう取組を今年やってみようかなというふうに思っております。

○議長（田窪秀道） 仙波憲一議員。

○２５番（仙波憲一）（登壇） 部長がお答えいただいた部分については、先ほど質問の中で御紹介をしたと思うんですけども、期待しているのは、行政としてはどこをバックアップするのか。例えば、各太鼓台に話し合いをかけるときにやったとか、地図情報の地図を新居浜市のホームページで出しますとか、そういうことが具体的にないと、なかなかうまくいかないんだろうというふうに思います。そうしないと、市民と行政が一緒にやったというふうにはならないんだろうと。子供たちのやっていることがどうなんだということよりも、それをフォローする形というのを新居浜市にはしてほしいなと思います。